



大銀杏

# 根 城



南部師行公

2020年度 第7号

八戸市立根城中学校 令和2年10月30日発行

## 跳ね返せ 逆境を 想いを繋いで 文化の花咲く

10月18日、今年の根中祭（文化祭）が行われました。例年は2日間でしたが、今年度は新型コロナウイルス感染防止のために、入場制限を導入し1日で実施しました。展示鑑賞はオープンにしましたので、2階中央廊下に並んだ総合文化部の作品は多くの方が見る事ができましたが、体育館への来場はステージ発表出演生徒の家族のみに限定させていただきました。



文化祭当日の朝、体育館に入場した時に誰もが驚いたのが、頭上に浮かんでいるような「七色の空」です。“虹雲”という表現が合うかもしれません。生徒会執行部員が前日に6時間かけて、たくさんの色のスズランテープを縦横に張って織り上げた芸術作品でした。ここにその写真を載せても美しさが十分に伝わらないと思い、本校ホームページのブログで紹介しています。

オープニングでは、根中祭テーマ「**繋 ~ 想いそして、前進**」が描かれた幻想的で立体的な世界が現れました。その後は、バラエティーに富んだ一芸大会や学級紹介ビデオが続き、午前の部を終えました。午後は、3年生の入学時から修学旅行までのスライドショー、合唱部と吹奏楽部の演奏が行われました。どちらの部もコンクール中止による悔しさを吹き飛ばすかのような熱演を披露し、聴衆である仲間たちから拍手喝采を浴びていました。賛助出演としてステージに上がった運動部の3年生や先生たちは、自分たちも楽しみながら会場を沸かせてくれました。

エンディングでは、スクリーンに文化祭準備期間中に撮った、全校生徒のいろいろな笑顔が映し出されました。最後には文化祭終了まで全力で役割を果たした3年生4人、工藤こはるさん、泉山蒼太朗君、小泉乃々さん、畠中颯希さんがそれぞれの想いを伝えました。この4人をはじめとした生徒会執行部員の大活躍には頭が下がります。

当日は、文化祭や仲間へ寄せる想いを繋げながら、規模縮小や入場制限等の逆境を跳ね返し、全校で一歩前へ踏み出した日となりました。文化祭以外にも「想いを繋いで前進」したことがあります。「継承式」では、3年生が1、2年生に自分たちの果たせなかった想いを繋ぎ、秋季大会での大活躍が実現しました。「修学旅行」では、多くの悔しさや悲しさに耐えてきた3年生に忘れがたい思い出を刻ませたいという願いのもとに、生徒・保護者・学年職員の想いが繋がり、秋の津軽路を満喫することができました。

## 跳ね返せ 逆境を 仲間と極めた イチ・ロク・ニー・ゴー

【9月29日（火）】

貸切バス4台に分乗し、保護者や1、2年生に見送られて学校出発。最初の見学場所は青森県立美術館。次は三内丸山遺跡。どちらも急ぎ足で見学した後に弘前へ。弘前城本丸での記念撮影後に班ごとに約4時間の市内自由散策に出発。事前に調べておいた食事処をはじめ、観光スポットを巡り歩き、集合時刻ギリギリにダッシュで到着。宿泊先の南田温泉ホテルアップランドへ。リンゴの浮かぶ大浴場とレクを満喫。



【9月30日（水）】

午前、津軽藩ねぶた村でねぶた囃子の実演や津軽の工芸品を見学し、金魚ねぶたの製作。午後は五所川原市に移動し、「立佞武多の館」「斜陽館・津軽三味線会館」「芦野公園」「鶴の舞橋」の4か所をクラスごとに時間をずらして見学。見上げるほどに高い立佞武多の迫力、太宰治の生家の豪華さ、津軽三味線の荘厳な音色、羽を広げた鶴を思わせる橋のたもとでの黄昏など、青森県の魅力の新発見と再発見。この日もホテルのりんご湯とレクで大はしゃぎ。



【10月1日（木）】

青森県の最高峰「岩木山」の頂をめざし、バスで8合目、リフトで9合目へ。残りは仲間と共に励まし合いながら自力で登り、**参加者全員が「1625m」の地を踏みしめる**。眼下には日本海と津軽平野。午後は最終見学地の「弘前りんご公園」でりんごの収穫を体験し八戸へ。

「みんなで行こう！」を合い言葉に、安全と安心を最優先に模索し続けた修学旅行。耐えることを強いられてきた生徒たちの前向きな姿に励まされ、保護者の皆様からの忌憚のない意見や貴重な情報に支えられて、今後ずっと記憶に残るであろう3日間を創り上げることができました。旅行中に至る所で見られた生徒たちの笑顔は、弘前城の満開の桜に勝るとも劣らぬものでした。

